里山アート展 15

第 15 回里山アート展に寄せて
佐藤賢太郎

今年の里山アート展は特に面白いと思う。15 年、第 15 回ということもあり、関連事業にサプライズもあります。今年もテーマは「アートと生活」です。

外国人の参加者は５人となり、過去最大となりました。作品参加した皆さんはアーチストではありません。我が家に滞在した外国人にアート展に参加していただき、捨てられる運命の廃材が見事に生き返りました。

ちよっとしたアイディアや創造によって生まれ変わるということです。外国人ばかりではありません、日本人の研修生（現役の大学生）の作品は発想が素晴らしい。ぜひ見てください。そして外国人ウーファーの作品は、どれも個性的でインパクトがあります。

ここに至り、私は実行委員長として決断しました。今年から作品に賞状を出そうと思います。もちろん実行委員に相談をしてのことです。受賞対象者は私を除くすべての方です。

それが、アート展の発展的な継続につながると思うからです。財源も乏しい中で、里山アート大賞、新人賞、ウーファー賞の三賞を設定しました。これにより、若者の集まる可能性もふくらみます。

＜家族で参加＞

会員の飯野直樹君一家が里山アート展の作品制作にやって来た。飯野君は中学校の教え子であります。教え子とこうして付き合っているのは二人だけです。彼はとても家族思いの人間です。ですから、家族でやってきました。

何をつくるかは決まっていません。私は、空いているのは壁面とこれですというと、私の作った作品を利用して考えるということでした。壁面には「家族」を描きました。このアイディアは 20 歳の大学生になった娘の美月ちゃんでした。そして立体の造形「ピックアップ」は、奥さん礼美さんのアイディアです。絵については、私はこうすると良いですとアドバイスをしました。食事の時は大変楽しく、私は美月ちゃんに可愛いと言われました。

そして、ホスト館と展示館を案内しました。息子の直志君は「コレ　お父さん!」と嬉しそうに歓声を上げていた。美月ちゃんも幼少の頃の自分の写真を見て「コレ　私？」と嬉しそうでした。

余談になりますが、飯野君に「今日は美月ちゃんと一緒に風呂に入る」というと飯野君は真面目に「先生それはまずいですよ、私も美月が３年になってから一緒に入っていません」と言います。

「桃源の湯」が男湯と女湯に仕切られた話はしていませんでした。教え子をカラカウなんて、私も相当若いですね。

＜日出谷小の鑑賞会＞

生徒たちが書いた手紙を読むと、「里山アート展で何を学んだか、それは挨拶の大切さです」とありました。子どもたちの言葉がとても印象的でした。作品をつくる楽しさではないのです。

10 月 11 日、校長先生はじめ日出谷小学校児童が里山アート展の見学にやって来た。ヤギの番犬のチロに吠えられて泣き出す生徒もいたが、生徒たちは何といってもヤギに関心があった。

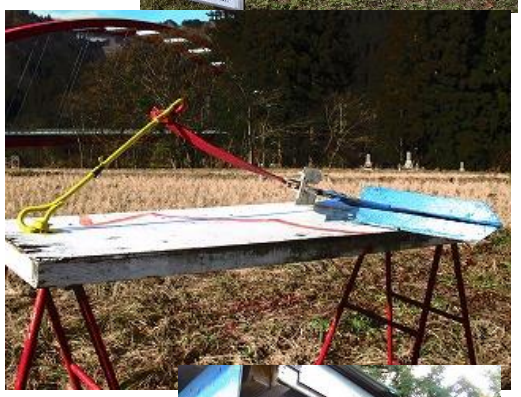
この日は写真を撮るためにモニカを私のスタッフにした。彼女はその役目をとても喜んでいた。

生徒の感想はさまざまであった。開会式の挨拶で、私はモニカがどうして我が家をホストに選んだのか質問しました。もちろん彼女は英語で答えました。私が「分かりましたか？」というと生徒は「分かりません」との反応であった。里山アート展鑑賞会で最初の外国人の言葉です。これも私の企画であるが、やがて里山アート展に参加したことが誇りとなって欲しいからです。

会場をまわり終えて感想を述べる時に、ある生徒が「自転車が置いてあって、枠が置いてあることがとても良かった」といった。この感想に私は驚いた。果たして、そのように感じる大人がどれくらいいるでしょうか？　次にビールの空き缶が良かったとの感想が多かった。里山アート展大賞、新人賞にも関心があったようです。昨年の作品にも、そして家族の絵にも関心の声が上がりました。この経験は、里山アート展を長期にわたり続けたからこそ得られたのだと思います。将来、彼らの素晴らしい思い出として残ることと思います。

里山アート展 15

＜作品集＞



TILLMANN
J. Gebauer

里山アート展 15

＜２０１８年度作品リスト＞

１．「石の椅子」佐藤賢太郎
２．「希望」佐藤賢太郎
３．「大草原」時崎庸二
４．「ソリ」火仙、佐藤マキ子、小口耕平
５．「これ何だろう？」大島和子
６．「「どれにしようかな」大塚秀夫
７．「花」ZOWIE　FOX
８．「ゆきがこい」POAUL
９．「楽しい小屋」Tillman
１０．「ヤギの小屋」横山輝
１１．「パッチワーク」佐藤賢太郎
１２．「「大地に恵を」大塚秀夫
１３「石花」火仙
１４．「黒米の田んぼ」小口耕平
１５．「ハシゴ」荻原正江
１６．「おもちゃ箱」吉田麻希
１７．「束縛」渡辺美紀
１８．「ソロバン人生」森紘一
１９．「連帯を求めて孤立を恐れず」森英夫
２０．「マチ歩き物語２０１８博進堂
２１．「長田良夫の絵」古田浅吉
２２．「地の塩・天の器」間地紀以子
２３．「枕草子」御沓一敏
２４．「梅」デービット
２５．「家族」飯野美月
２６．「ピックアップ」飯野礼美
２７．「自転車」佐藤賢太郎
２８．「ヤギ家」鈴木隆雄
２９．「縦・横風探知ホットライン」小宮和巳
３０．「人」大内冨士枝
３１．「會津の稲干し」佐藤賢太郎
３２．「思い出」日出谷小学校全校児童
３３．「人生を変えてくれた人」長谷川マリ子
３４．「百足」古山武信
３５．「写真」桐山士郎
３６．「夕映え」佐藤賢太郎
３７．「風景」佐藤賢太郎
３８．「水平」佐藤賢太郎
３９．「マダム」佐藤賢太郎
４０．「これなにか？」佐藤賢太郎
４１．「椅子塚」長田良夫

出品総数　　４１点
内訳　主催団体（１６人）２６点
　　客員プロ　　２点
　　公募（団体を含む）１３点

＜表彰＞

２０１８年度　第１５回里山アート展

アート大賞
大塚秀夫「大地に恵を」

同　ウーファー賞
ZOWIE　FOX「花」

同　新人賞
吉田麻希「おもちゃ箱」

同　特別賞
日出谷小学校全校児童「思い出」